

足のしびれもなんの

吉井 小学生26人が座禅体験

「第二十二回子ども禅のつどい」が二十、二十三日の両日、吉井町神保の仁叟寺(渡辺啓司住職)で開かれ、高崎市と同町から参加した小学二年から六年まで二十六人が、座禅や寺の掃除など普段とは一味違った生活を楽しんだ。

規律正しい寺での生活を過ごし、子どもたちに印象深い夏休みの思い出をつくらせてもらおうと、同寺が二十年以上続けている恒例行事だ。



座禅に挑戦する子どもたち



座禅に挑戦する子どもたち

初日の座禅会では、渡辺住職と長男の龍道さんが「座禅を通じて物事に集中すること」を学んでください」と子どもたちを指導した。

子どもたちは壁に向かって足を組み、時折むすむすと体を動かしながらも、静かに座した。

「第二十二回子ども禅のつどい」が二十、二十三日の両日、吉井町神保の仁叟寺(渡辺啓司住職)で開かれ、高崎市と同町から参加した小学二年から六年まで二十六人が、座禅や寺の掃除など普段とは一味違った生活を楽しんだ。

標東村山子田の耳飾り館は八月三十一日まで、第十回企画展「〇〇時代人に会いたいな」―復元された縄文人の衣装―を開いている。旧石器時代から古墳時代までの衣装や装身具など約八十点を展示、古代のファッションが楽しめる。

同館は昨年度、「縄文人の衣装セット作製事業」が文化庁の芸術拠点形成事業に認定され、「アングン」と呼ばれる技法で編んだ衣

標東・耳飾り館

西北毛



富岡	藤岡
FAX	FAX
002746222431241	002744222400565
はるな	安中
FAX	FAX
002733734096	002733854341
渋	沼
F川	田
AAX	AAX
00	00

足のしびれもなんの

吉井 小学生26人が座禅体験

「第二十二回子ども禅のつどい」が二十二、二十三の両日、吉井町神保の仁叟寺（渡辺啓司住職）で開かれ、高崎市と同町から参加した小学二年から六年まで二十六人が、座禅や寺の掃除など普段は一味違った生活を楽しんだ。

規律正しい寺での生活を通じ、子どもたちに印象深い夏休みの思い出をつくってもらおうと、同寺が二十年以上続けている恒例行事。昼の座禅や本堂と座禅堂のぞうきん掛け、夜の花火大会や度胸だめしなど、盛りだくさんの二日間を過ごして互いに交流を深めた。

初日の座禅会では、渡辺住職と長男の龍道さんが「座禅を通じて物事に集中することを学んでください」と子どもたちを指導。子どもたちは壁に向かって足を組み、時折むずむずと体を動かしながらも、静かに二十分間の座禅を体験していた。

参加した高橋英里さん（高崎大類小四年）は「いつもより集中できた」とにっこり。永塚惣一郎君（吉井小五年）も「足はしびれたけど、色んな鳥や虫の音が聞こえて風を涼しく感じた」と満足そうだった。